

地域と学校がつながる

コミュニティ・スクール通信

第1号 令和8年6月12日発行

紋別中学校運営協議会

文責:紋別中学校長 佐藤 大

6月2日(火)に令和8年度第1回学校運営協議会が開催されました。今回は、学校運営協議会で議論されたことをご紹介します。

熟議テーマ「紋別中に期待すること」

紋別中の「現在のようす」についての意見

○学習面

- ・家で勉強している？
- ・興味があることはよくやる。
- ・**「紋別愛(ふるさとを愛する心)」を総合的な学習の時間を使って育てる計画**
- ・紋別市総合計画へ参画

○生活面

- ・**友人とのやり取り(今回の運動会のように生徒主体の取組を多く行う。)**
- ・生徒同士がしっかり話し合える場が必要
- ・卒業生の評価が地域の学校評価につながる
- ・紋別の良さを子どもたちに伝える

○進路

- ・地方が進路になってきている。**紋別の高校へもっと進学してもらいたい。**



次に「こうするともっと良くなること」についての意見

- ・子どもとデジタル(AI)の向き合い方
- ・デジタル化した時代だからこそ**本物を体験することが大切**
- ・子どもたちの発想で「まち」を豊かにしていく
- ・紋別の良さの PR
- ・中学生は高校のことをもっと知りたいはず
- ・**高校とのつながりが必要ではないか**
- ・早くから(中2)ころから高校の体験が可能か



デジタル時代だからこそ、生徒が「本物」を体験する中で、豊かな紋別愛が育まれるのではないか。中学生の柔軟な発想を市の総合計画や魅力 PR に活かすことで、地域を豊かにする当事者意識が芽生えます。さらに、高校体験などを早期から行うことにより地元の高校とのつながりを深めれば、地域の良さが再発見され、将来的に「紋別の高校へ進学し、卒業後も地域に貢献したい」というふるさとを愛が育まれるのではないかとまとめになりました。次回は、紋別高校の校長先生をゲストにお呼びして「中高のつながり」「18歳の子ども像」に迫りたいと思います。

次回のテーマ「中高のつながり・紋別市のこどもの18歳の姿」 8月25日(火)開催